とうきょう
すくすくわくわく
プログラム

（令和7年度）

宮前 花と緑の保育園

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【テーマ】

- 水の中で生活する生き物を知る。
- 身近な素材を使って水族館を再現する、海の生き物を模倣することで、想像力を養う。
- 海の生き物、川の生き物に親しみを持ち、環境問題やSDGSについて学ぶ。
- 海や川の水をきれいにすることの大切さを知る。
- 命の大切さを知る。

【テーマの設定理由】

・保育室や玄関で魚の飼育を始めると、興味を示す子どもが多く、水の生き物に親しみを持てるような活動や環境設定をしていきたいと企画した。図鑑や絵本でも水の生き物の名前を覚えたり、特性を知る姿があった。命の大切さや環境問題にも触れることができると思い、設定した。

【活動スケジュール】

	活動内容
①	海水魚水槽を観察し、生き物に興味や関心を持つ。
②	海や川の生き物に興味を持ち、図鑑や絵本などで知識を深める。 観察した生き物を絵で自由に表現する。
③	想像力を膨らませながら水族館ごっこを企画し、友だちと協力しながら役割分担、制作を楽しむ。
④	異年齢の友だちや地域の方を招待し、水族館ごっこを実施。 水族館の雰囲気を味わう。
⑤	移動水族館のイベントに参加。タッチングプールで海の生き物に触れ合い、特徴を知ったり、発見することを楽しむ。
⑥	魚のトークショーを開催し、水の生き物や環境問題、SDGｓについて関心を持つ。命の大切さを知る。
⑦	遠足で水族館を訪れ、様々な生物をじっくり観察する。発見したこと、考えたことを友だちや保育者に共有し、喜びを感じる。

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動のために準備したもの、環境の設定】

水の生き物を観察する

常設海水魚水槽、常設メダカ水槽、常設熱帯魚水槽

水の生き物に関する知識を得ることで興味が高まる

図鑑、パズル、本に集中できるコーナー

水族館ごっこを開催する

ポリ袋、マジック、画用紙、絵の具、ガチャカプセル、紙粘土、紙コップ、タコ糸、パーテーション

移動水族館（タッチングプール）を開催する

アクアガジュカンパニー業者の依頼

魚のトークショーを開催する

さかなのおにいさん「かわちゃん」を依頼する

遠足の企画

すみだ水族館へ遠足に行く企画をする

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容①】

【海水魚水槽を観察し、生き物に興味や関心を持つ。】

・海水魚水槽の中をゆっくりと眺める子ども達。生き物の中には岩に隠れながら周りの様子をみている怖がりな魚。縄張り意識が高く、威嚇している魚。物怖じせずに水槽内をのびのび泳いでいる魚。警戒すると体色を変化させる魚。岩やガラス面のコケを一生懸命食べている貝。

毎日水槽を眺めながら様々な発見があり、指差ししながら気づいたことを大人に伝えようとする。

水槽にいる生き物を描いてみたいという声があり、観察しながら描いていた。

【子どもたちの声や様子】

「あおいおさかな」　「ちっちゃいおさかな」　「かくれちゃった」

「なんでいつもここにはさまっているの？」　「ここにもいるね」

「マジリアイゴちゃいろくなっている」

「ニモはオレンジとしろのシマシマだね～」

「イソギンチャクいきているの？」

「ニモのおうちはイソギンチャクなの？」

【振り返り】

・毎日、水槽を眺めるのが日課となり、少しずつ大きくなる生き物、赤ちゃん貝が生まれたという変化にすぐ気づくようになった。自然と水槽内の生き物に親しみを持つようになった。

・時間を十分に取り、好きなだけ観察できるようにすると、水槽の裏側までよく覗き込み、隠れている魚やエビを発見していた。臆病な魚や気の強い魚など、生き物にも性格があることに気づく機会となった。

・観察したものを絵で表現すると、魚の種類によって体色、形が異なることに気づいていた。特に映画で馴染みのあるカクレクマノミやナンヨウハギは人気であり、さらに親しみを抱いていた。

・ヒトデがガラスに張り付いている時の足の動きに釘付けとなり、意外と速い動きに保育士も園児も一緒に驚き、新たな発見があった。

テーマ：水の生き物

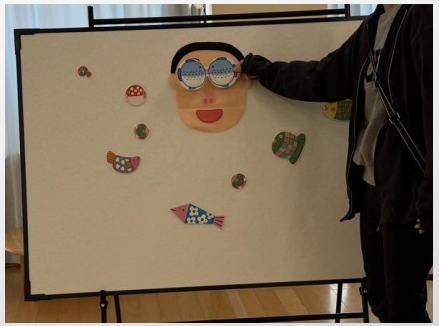
社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容②】

【海や川の生き物に興味を持ち、図鑑や絵本などで知識を深める。

観察した生き物を絵で自由に表現する。保育士のシアターで知識を高める。】

- 水の生き物に関するパズルや図鑑、絵本を用意する。
- じっくりと観察できるように多数の種類の図鑑や絵本を設置し、人通りの少ない絵本コーナーで、ゆったりと時間を気にせずに読める空間を設置。
- 保育者がそばにつき、子どもの発見を言葉にする手助けをしたり、質問に寄り添うようにする。
- 観察した水の中の生き物を絵で表現できるよう、クレヨンや色鉛筆、紙をすぐ手に取れるところに置く。
- 魚などの生き物が登場するパネルシアターを通して、魚の知識を楽しく知る。



【子どもたちの様子】

- 今まで見たこともない色鮮やかなな魚や不思議な模様の魚を見つけて特徴を知ろうとしていた。
- 口やヒレの形など拡大した写真を見て、その体の部位の役割を保育士と一緒に知ることができた。
- 海だけでなく、川で生きる魚、深海で生きる魚など、種類によって住む場所が違うことを知ることができた。魚の特徴をよく知る園児は図鑑の写真を見ながら友だちに知っていることを話す様子が見られた。
- 保育園の水槽にいる魚を絵本や図鑑で見つけると「あの魚だ！」というように確認している様子が見られた。
- 図鑑を見て、イソギンチャクには毒があることを知るが、なぜカクレクマノミは元気に生きているのか、毒のそばで平気なのかと心配する子もいた。
- パネルシアターを見ると次はどんな魚が出てくるかな？と期待に満ちた表情で楽しみ、生き物への親しみを感じている様子だった。

【振り返り】

・図鑑という教材が子どもの好奇心を高めるきっかけとなった。カラフルな魚への反応や深海に住む魚、サメには特に興味を示し、保育園の水槽の生き物だけでなく、幅広く様々な所で生きる水の生物に興味が広がった。

・口やヒレなど、体の役割に気づくことができ、実物の行きものを見ながらさらに観察力の向上につながったと感じる。

・水槽にいる魚と図鑑の魚を結びつける力がつき、生き物への知識を高めることができた。

・イソギンチャクの毒について知ることができ、水槽の魚を心配する様子から生き物への愛情を感じられた。

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容③】

【水族館ごっこを企画する】

- 想像力を膨らませながら水族館ごっこを企画する。 年長児が理想の水族館、構想・アイデアを出す。
- ホワイトボードを活用して意見集約と役割分担。
- 大型制作（トンネル、くじらの滑り台）
- 水族館をイメージしたアート展示、フォトスポットの作成。
- 水族館グッズの販売コーナーの考案と制作。
- 水の生き物をテーマにしたゲームコーナーの設置。

【子どもたちの様子】

- 年長児がホワイトボードを囲み、「どんなお店にしたいか。」を積極的に議論し、自分達でイベントの骨組みを形にする姿が見られた。
- 図鑑で調べた情報を元にちんあなごの形や色を忠実に再現しようとしたり、ペンギンの特徴を捉えたパフェを考えたりと、こだわりを持って制作に取り組んでいた。
- 「本物の水族館みたいにトンネルを作りたい」といった空間全体を考えた発想が見られた。

【振り返り】

- 図鑑での調査を知識の習得だけでなく、お店屋さんごっこに繋げたことでより深い学びとなった。
- 自分達の意見が形となり、イベントに繋げることで、大きな自身と達成感を抱くことができた。
- 子ども達の声、アイデアを保育士が拾い、具現化させることができた。子どもたちの「やりたい」を尊重できた。

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容④】

【水族館ごっこを開催する】

- 年長児が主体となり、他の学年全員を招待した。
- 年長児が店員や案内係を務め、受付、ゲームの説明、グッズ販売などを担当。
- 子ども達が作成した制作でイメージしていた水族館を再現。

【子どもたちの様子】

- 年下の子ども達に対し、歩幅を合わせて優しく誘導したり、ゲームのやり方を丁寧に教えたりする姿が見られた。
- 自分達で作ったグッズを「これおすすめです」と積極的に勧めるなど、役割を理解し自分達で考えて行動していた。
- 水族館のような空間に足を踏み入れた時に目を輝かせて期待感を持っていた。
- 年下の子ども達が喜ぶ姿を見て、年長児も大きな満足感を感じ、自信に満ちた表情を見せていた。

【振り返り】

- 年長児としての自覚が芽生え、相手を思いやる気持ちが具体的な行動として現れる貴重な機会となった。
- 招待して喜んでもらうという明確な目標があったことで、子ども達の意欲と責任感が高まった。
- 自分達のアイデアが友だちを笑顔にできたという経験は自己肯定感を育む大きな力となった。

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容⑤】

【移動水族館に参加する】

- 普段触れる機会の少ない海の生き物と直接触れ合うことで生命の不思議さや多様性を体感し、自然環境への興味関心を育む。
- 専門業者による大型水槽の設置。
- ネコザメ、タカアシガニ、オオクソグムシ、カブトガニ、ヒトデ、ウニ、貝類、セミエビ等、20種類の生き物。
- 見るだけでなく、実際に手で触れる「タッチングプール」形式で実施。

【子どもたちの様子】

- オオクソグムシやカブトガニなど、図鑑でしか見たことのない生き物は特に人気で、カブトを触ると「硬い」「足がたくさんある」と細部まで観察して驚きの声を上げていた。
- ネコザメのザラザラした肌質やウニのトゲの動き、ヒトデの感触など、触ってみて初めてわかる質感に夢中になっていた。
- ウニは触ると痛そうというイメージがあったが思ったより柔らかいトゲだったと知ることができた。
- 最初は怖がっていた子も友だちが触る様子を見たり、保育士の付き添いのもとでそっと触れることで少し愛着を持てるようになる。

【振り返り】

- 写真や映像だけでは伝わらない「重さ」「手触り」「動き」を直接感じることで、子ども達の記憶に残る活動となった。
- 多種多様な生き物の形状や生態に触れることで、生き物によって特徴が違うという視点を養うきっかけとなった。
- 生きた生き物を優しく扱うという体験を通じ、自分たちより小さく、また異なる環境で生きる命を尊重する気持ちが育まれた。

テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容⑥】

【魚のトークショーに参加する】

- さかなのおにいさん「かわちゃん」（魚の生態や海、川の大切さをおもしろく伝える方）によるトークショーを企画する。
- ２歳児～５歳児がトークショーに参加。東京近郊の水族館にフォーカスしたお魚クイズや環境問題、SDGｓについても触れ、子どもでも楽しく学べる内容の講演会を開催。
- 保護者も招待し、親子で楽しくトークショーに参加できるよう企画
- 形がヘンテコなものやエイリアンのような見た目の魚、大型のサメなど、ただ名前を覚えるだけでなく、その生き物の秘密を知ることができる内容。

【子どもたちの様子】

- おさかな４コマクイズを見ながら「はいはいはい」と元気に手を挙げる姿や発言する姿があった。
- かわちゃんのユーモアあふれる語り口に引き込まれ、2歳児から5歳児までが飽きることなく、笑ったり驚いたりしながら熱心に聞き入っていた。
- ５歳児が秋の遠足で行く予定のすみだ水族館にフォーカスした内容のクイズでは正解すると親子で喜ぶ姿があった。
- 難しいSDGsや環境問題の話も、かわちゃんの分かりやすい説明によって、自分たちの身近な海や川を大切にしようという意識が自然と芽生えている様子だった。

【振り返り】

- 水の生き物に関するプロである「かわちゃん」を招いたことで保育士だけでは伝えきれない専門的で興味深い知識を楽しく知ることができた。
- 生き物の不思議な形に隠された秘密を知ることで物事を多角的に観察する思考力を刺激するきっかけとなった。
- この体験を機に水質汚染やゴミ問題など、生き物たちが住む環境を守るための学びに繋げていく土台を築くことができた。

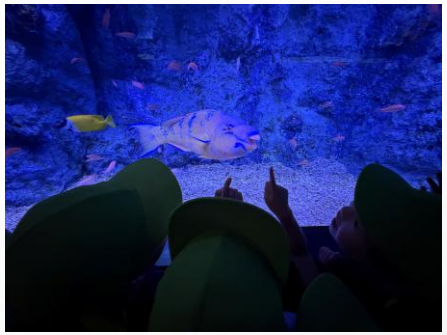
テーマ：水の生き物

社会福祉法人　三樹会
宮前　花と緑の保育園

【活動の内容⑦】

【すみだ水族館へ遠足に行く】

- 図鑑やさかなのおにいさん「かわちゃん」の講演会で学んだことを実物で確認し観察力を養う。
- くらげエリア、大水槽、海水魚、チンアナゴの観察をする。
- 特徴を持つ生き物の探究を楽しむ。



【子どもたちの様子】

- さかなのおにいさん「かわちゃん」に教えてもらった生体を見つけると知識と実物が結びついたことに喜びを感じ、興奮気味に観察をしていた。

- 大水槽の前では悠々と泳ぐサメやエイの迫力に圧倒されながらも長い時間見入る姿があった。

- 自分が見つけた発見を「見て見て」と友だち同士で教え合い、共感しながら見学を楽しんでいた。

【振り返り】

- 講演会という座学から水族館という実体験へと繋げたことで、子ども達の理解がより深化し、質の高い探究活動となった。

- 実物を見ることでさらに興味が高まり、園に戻ってから図鑑で調べ直すなど、学びのサイクルが持続している。